授業実践 1 健康教育活動案

 実践日時
 平成15年11月4日(火)
 第4校時(11:35~12:20)

授業実践学級 6年1組

授業実践者 T1(担任)高橋学 T2(養護教諭)青柳千春

養護教諭が授業実践するねらい ====

普段元気に過ごす児童にとって「病気の予防」についての学習は、必要感が少ない。そこで養護教諭がTTで参加し、「かぜ」を例に挙げ、学習内容と児童の生活を結びつけられるようにしたり、児童がわかっているつもりでも実はあいまいな知識・理解である「かぜの症状の意味と手当ての関係」を考えさせることで、児童の興味・関心を高め、学習への意欲を喚起させる。

第1時 病気とその起こり方 【保健学習・1/6時】

本時のねらい 1.健康の価値を知る。

- 2. 病気は、病原体、環境、生活の仕方、からだの抵抗力が関わって起こること、それぞれに適切な対策をとれば予防できることがわかる。
- 3. 私たちの体には、病原体などにうち勝つ力や病気を治す力が備わっていることがわかる。

学習活動・児童の反応 教師の働きかけ 発問		資料・ 評価	時間
1. オリエンテーションと本時の事人		ワークシート配布	
		イチローの写真	
みなさんは、毎日元気に過ごすためにどんなことにこだわって生活してい		カード	
ますか?			
		よいコンディション	
イチローの写真を提示。小学校の頃からプロ野球選手になることを目標に		作り	
して努力してきた。たくさん練習もしてきた。そして、毎日の生活の中でも			
いろいろな努力をしてきたし、今もしている。インタビューで語った睡眠時	担	夢がかなうのを支	
間・枕・水についてのこだわりを伝える。	任	えてくれるもの	4分
	l	イチローの健康への	
イチローはどうして、毎日の生活の中でこれらのことにこだわっているん		こだわりにふれ、夢の	
だろう。		実現にとって健康であ	
こだわっている理由を考え発表する		ることの大切さに気づ	
・健康な体を作って活躍するため、打率を上げるため、虫歯にならないため		く。 (興味・関心)	
病気にならないため、いつも体調をよくしておくため			
彼は常に万全の状態でグランドに立つことを重視している。よいコンディ			
ション(体の調子)を保つことが彼の夢の実現を支えてくれる一つのキーワ			
ードであることをおさえる。			
今日から 7 時間かけて保健学習、学級活動、道徳の時間をつかって病気の			
原因や予防の仕方を学び、よいコンディション作りのために、自分たちは何			
ができるかを考えていきましょう。			
	- -	 	+

2. 八小の欠席の様子を知る

このグラフは、昨年度の月別の欠席者数です。学校を休むのはみんなのコ ンディションが悪いときだよね。お休みした理由で一番多いのは何だと 思いますか??

欠席理由を考える。・かぜがおおいんじゃないかなぁ

かぜをひいたという共通体験から、自分にも、コンディションがよいとき と悪いときがあることに気付けるようにする。

掲示資料

担

任

(欠席のグラフ)

病気の原因や起こり 2分 方を学習することに関 心を持つことできたか (関心・意欲)

3. かぜの原因・予防・症状・手当てを考える

自分がかぜをひいてしまった原因、ひかないための予防方法、かぜをひい担 たときの症状や手当てについて考え発表する。

ワークシート 掲示資料(模造紙) 「かぜの原因・症状 手当て・予防」

5分

4. かぜの症状の意味と悲抚力の関係についてわかる

ところでかぜをひいたとき熱が出たよね。いつもの体温より2度も3度も 高くなったでしょ。熱が出て体温が高くなっているのに、どうして部屋を┃担 暖かくしたり、布団を掛けて温かくするんだろう。むしろ、体を冷やして【任 熱を冷ました方がいいんじゃないのかな?

理由を考える

・寒気がするので温かくした方が気持ちがいいから・汗をかいて体の余分な 熱を追い出すため・風邪の菌は熱に弱いから

では保健の先生に聞いてみよう

熱がでているのにどう して体をあたためるの?

分

自分の体験や既習の |学習内容を活用し、積 極的に取り組んでいる か(関心・意欲)

熱が出て体温が高くなっているのに、部屋を暖めたり布団を掛けたりしても っと体を温めるって不思議ですね。正解を話す前に、ヒントを用意したので、 |それを聞きながらじっくり考えてみましょう。トカゲは体温が周りの温度と| 同じ温度になる変温動物なんだよ。だから、自分が一番好きな温度の場所を |選ぶ。そのトカゲを床の温度がちがう部屋の中に入れます。するとトカゲは┃教 人間の平熱とほぼ同じ37度くらいの所を選ぶそうです。そのトカゲの体の 中に、風邪の菌を入れた場合、トカゲはどういう行動をとると思いますか?

ア、35度くらいの所に(少し冷たい場所)に移動する

イ、同じ位置にいてそのまま動かない

ウ、39度くらいの所に(少し温かい場所)に移動する

自分の答えと理由を考える

正解はウです。このトカゲは、少し温かい場所に移動します。

実は、熱には病原体が体の中で勢いよく増えるのを抑える働きがあります。 人間も含めて動物の体には、病原体が入ってきた時、その病原体をやっつけ る力があります。でもどんな病原体かを判断してからそれをやっつけるため の武器である抗体を作るので、抗体ができるまで、体の中に入った病原体が 増えないように戦わなくてはならないのです。だから、トカゲは温かい場所

掲示資料

}

養

諭

┃1「トカゲの実験」

病原体の侵入と 免疫の仕組みの図 に移動して、自分の体温を上げて抗体ができるまで病原体が増えるのを抑え ようとしとたんだね。

では、このヒントを聞いて、熱がでた時に部屋を暖かくしたりふとんをかけ て体を温める理由をもう一度考えてみてください。どうしてだと思いますか?

熱が出たとき体を温める理由について自分の考えをまとめる。

人間は、トカゲとは違って自分で熱を作ることができます。暑い夏でもさむい冬でも周りの温度に関係なく一定の体温を保つことができるのはそのためですね。だから、風邪の病原体が体の中に入ったとわかった時、その病原体をやっつけるための抗体ができるまで、自分で体温を上げて病原体が増えないように戦うのです。部屋を暖かくしたり布団を掛けて体を温めるのは、体温を上げるのを助けることになるのです。

病原体をやっつける抗体ができると体温はもうそれ以上あがらなくなります。体温が39度くらいの時が一番抗体は活発に動き、病原体をやっつけることができるからです。そして病原体との戦いが終わると、脳は平熱まで体温を下げるように命令し熱を体の外へ出すために汗をかきます。だからこの時は、むしろ薄着になったり、部屋を暖めないで熱を下げるのを助けるといいですね。このように、病原体から自分の体を守り病気に打ち勝つ力を抵抗力と呼んでいます。(39度を超える高い熱が続くと自分の細胞がやられることもあるので解熱剤を使うこともあるが、安易に解熱しない事を加える)

風邪をひいたとき、熱がでるのはウイルスが増えるのを抑えて自分の体を 守るという意味があったんだね。咳・くし ゃみ、鼻水、下痢・嘔吐など の症状の意味を考えてみよう。

それぞれの症状の意味を考え、発表する。

児童の発表で不足の場合は掲示資料を使って、補足説明する。(養護教諭) 病気の症状は、どれも、抵抗力を働かせて、自分の体が病気と戦っている ことの表れだということがわかりますね。そして、この抵抗力の働きがよ くなるように考えて、手当をすることが大事なんだね。

5. 病気の起こり方と予防についてわかる

病気が起こる原因は「病原体」「環境」「生活の仕方」「体の抵抗力」である。 病原体である風邪のウイルスが教室にいたとしても、風邪になる人となら ない人がいるのは、それぞれの生活の仕方や体の抵抗力が違うため。

病気にかからないための予防方法は「病原体をなくす」「病原体を体の中に 入れない」「抵抗力をつける」の3つである。

児童がかぜの原因だと考えていることと、普段の生活の中で気を付けていると答えた内容を、掲示物の病気の原因・予防方法を対比させて自分たちがしていることに、科学的な根拠があることがわかるようにする。

病原体の侵入と免疫 の仕組みの図

発熱の仕組みの図

掲示資料(模造紙)

咳・くしゃみ

鼻水

担

任

養

護

教

諭

下痢・嘔吐

症状の意味と抵抗について理解できたか (知識・理解)

掲示資料(模造紙) 「病気の原因と予防」

病気の起こり方と予防方法が理解できたか(知識・理解)

5分

5分

- 3 -